

武蔵野市第四期基本構想・長期計画テーマ別市民会議  
「団塊世代の主張」 第5回会議 会議要録

日 時：平成16年5月18日（火） 午後7時～8時

場 所：武蔵野スイングホール スカイルーム1・2

出席委員：6名

1 開会

2 意見交換

委員：前回の施設見学の際に草案を渡したが、本日は最終的な報告書の形にまとめたい。今回お配りしたものはレイアウトを含め事務局とまとめたものだ。総論部分についてはキーワードを包み込んでまとめた。提言部分についてはテーマ別各論について皆さんに分担して書いていただいたものを一歩踏み込んでまとめた。総論ではキーワードとして書かれているが、各論では触れられていない部分や数字、出典等が明記されていないところがあるので、検討していただきたい。本日の討議内容を受け、まとめて、後日再度皆さんに確認していただいたうえで完成させたいと思う。

委員：報告書の中の「団塊力」という言葉は良い。新しい。

委員：団塊世代は数も多いから、パワーもある。前向きな表現だ。

委員：報告書のタイトルも「団塊力」としてはどうか。

委員：「団塊力のススメ」などはどうか。

委員：やはり「団塊力」の方がインパクトはある。

委員：「団塊力」というネーミングは面白いし、スッキリしていて良いのではないか。

（一同うなずく。タイトルは「団塊力」に決定）

体裁を含め、もう一度練り直して、その後皆さんに確認をお願いする。

3 スケジュール確認

事務局より6月4日に市長に報告書を提出することと、その際の委員の出欠を確認。

4 最後に各委員よりひとこと

委員：「団塊世代の主張」というテーマ別市民会議を半年間にわたってやってきたが、中身の面白い会議だったと思う。ここで最後に皆さんよりひとことお願いしたい。

委員：実質3～4回の会議で提言をまとめられるのかということに最初は不安もあった。何か具体的なものを提案しなければならないと思ったが、「DANKAIプロジェクト」案が加わったことにより、中身の締まったいい報告書ができたと思う。今回は楽しく有意義にできた。ありがとうございました。

委員：最初は自分に団塊世代としての主張ができるかどうか分らなかった。担当分野が「仕事」ということもあったが、自分にも地域にもプラスとなるビジネスとして元気な団塊世代のパワーが地域で活用される仕組みができあがれば良いと思う。今後の目標が明確になって良かった。これからの人生に希望が出てきた。

委員：本来ならば、報告書ができたこの段階から事業化についての議論を始めたいところだ。行政側は報告書の完成をゴールとするのではなく、具体的な施策として活かしてほしい。今後の取り組みに期待したい。

委員：会議の中で、具体的な仕事がいくつも出てきた。私たちの手で実現できないかと思う。この半年

の間にも、世間ではいろいろな動きが出てきている。特に介護に対する人々の要望は切実なもので、高齢者向けの筋力トレーニングなど自治体も取り組み始めた。「介護予防」という流れには賛成である。

委員：「薬効」という言葉があるが、委員相互の相乗効果で素晴らしい報告書ができた。日常が忙しすぎて先のことなど考えていなかったし、「老後」についてはあまり良いイメージを持っていなかったが、(今回会議に参加して)これからの人生も捨てたものではないし、力を結集すれば何かできると思うようになった。また、相互扶助も大事だと思う。皆さんからパワーをもらった気がする。

座長：「税金を払いつづける市民であり続けたい」という“隠居を全く考えていない”積極性に驚かされた。これまでの自分の生き方と照らし合わせて今後のあり方を自問できたのは収穫である。今回は市の働きかけでこのような報告書ができたが、アイデアを具現するため、まず動くのは我々であるべきではないかと思う。一步踏み出してみても、行政を巻き込み、さらに行政に逆提案していくことができたと思う。残された時間をただ歳を重ねるのではなく、自分も周りも豊かにしていきたい。